

まもる一む福岡の「交流・活動の支援」をお伝えする

環境活動 NEWS 4号

「まもる一む環境活動 NEWS」では、「交流・活動」に関するイベントの様子を紹介しています。第4号では、2020年度後半に実施した、生物多様性をテーマとした「特別講座」「トーク・カフェ」、団体の交流や活動の成果を発表した「ふくおか環境活動発表会」についてお知らせします。

目次

- 1 特別講座
「マライカさんの見た福岡の自然」
- 2 第2回トーク・カフェ
「動物写真と九州の自然」
- 3 第3回トーク・カフェ
「自然と短歌のあそびば」
- 4 ふくおか環境活動発表会 × ふくおかレンジャー研修会
「地域の自然と環境活動」

特別講座「マライカさんの見た福岡の自然」(2020年12月13日)



オランダからヨットで世界中を旅し、31年前に福岡へやってきたマライカさん。自然や生きもの、冒険が大好きなマライカさんと歩くと、センス・オブ・ワンダーの世界に誘われます。そんなマライカさんが見てきた"福岡の自然"について、ご自身で撮影された美しい写真を見せていただきながらお話を伺いました。**マライカ・ヤンセンさん**



マライカさんがこれまでに撮影された沢山の写真の中から、この日用意してくださったのは、なんと**400枚!** 季節の移り変わりと共に、生きもの達の躍動感ある瞬間やユニークな一面をご紹介いただきました。福岡には、山、川、海の全てがあり、それぞれの位置が近いため、様々な種類の生きものに気軽に会いにいける良さがあるとマライカさんはいいます。参加者からは、「鳥の群れ、親子、カップルの写真を見て心が温まった」「身近なところにある素敵な自然を見逃していることに気付いた。今後は意識して見られるよう生活していきたい」「美しい福岡再発見。自然に慣れ親しむおもしろさを感じた」などの感想をいただきました!

「動物写真と九州の自然」(2020年11月29日)

はく製
コレクション



タヌキ

キツネ

テン

生物多様性に関心がある方が集まり、一緒に学び、交流する「トーク・カフェ」。コロナ禍でも、多くの方に参加してもらえるよう、会場参加とオンライン参加を合わせた「ハイブリッド開催」で行いました。ゲストは動物カメラマンの津田堅之介さん。

日本を代表する生物生態写真家の栗林慧^{さとし}さんに弟子入りし、野生動物の観察技術を修得。独立後は国内外の野生動物の生態調査と撮影を行ってこられた津田さん。ネパールの奥地でベンガルトラの撮影に挑んだり、長崎県の離島・野崎島で動植物の生息調査や撮影、自然観察会を行ってきたそうです。この日も、ワイルドな雰囲気がにじみ出ていました！

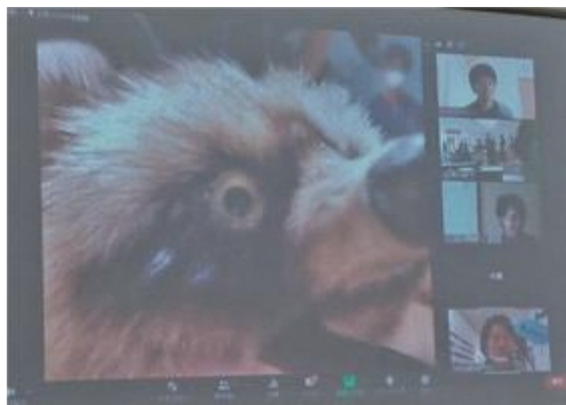


津田 堅之介さん

まず、スライドショーで、九州で暮らす野生動物たちの貴重な姿をご紹介いただきました。夜の森に仕掛けた赤外線カメラに、ぐっと近づいてくるシカの映像が映し出されると、会場から歓声が上がります。コウモリ探知機を通したコウモリの超音波や貴重なムササビの鳴き声なども聞かせてもらい、普段ふれることのできない野生動物の自然の姿に、参加者は興味津々の様子でした。住宅街に出没したサルや、街中に暮らすシベリアイタチの例をあげ、なぜ野生動物が市街地に出没するのか、出会った時にはどう対処したらよいかについて専門家の目線でお話頂きました。餌付けや不必要な保護は、鳥獣被害拡大や生態系の乱れを招く恐れがあるとのこと。野生動物と人とが上手に暮らしていくためには一定の距離をとることが重要だそうです。

講義の後は、津田さんがこれまで収集されてきた骨や毛皮、糞などの展示コーナーが出現！

津田さんのコレクション



直接手でさわったり、臭いを嗅いでもらい、五感で感じていただきました。オンライン参加者にもカメラでググッと迫って様子をお届けしましたよ！

第3回生きものと私たちのくらしトーク・カフェ

ハイブリッド開催

「自然と短歌のあそびば」(2021年1月17日)

今年度3回目のトーク・カフェのゲストは、歌人の竹中優子さん。第62回角川短歌賞を受賞され、最近では歌集「ステーション枝豆」を制作されています。まもる一む福岡周辺で自然観察会を行いながら、竹中さんが作ってくださった短歌をみんなで味わいました。



竹中 優子さん

短歌とは

基本的には57577の五句体で、季語は不要。日常の様子を観察したり、自分の気持ちや自由な発想をつなげたりして作る。例えば、自然を観察して命を慈しむ気持ちを感じた瞬間の具体的なさま、「命は大切だよ」の一手手前のところを歌にするとよい。

野外での自然観察会の様子は、オンライン参加者にも生中継。街路樹の幹で暮らす地衣類、白い木の実、すき間から伸びる若木などを観察し、竹中さんに短歌にさせていただきました。通行人の方が不思議そうに見ていく中、竹中さんのユニークな表現をみんなで味わっていると、隣の川で大きな魚を飲み込もうと苦戦しているウに遭遇!どうなることかと、みんなで眺めていましたが、オンライン参加者にはただ川が流れている映像にしか見えなかったそうです。越えられない壁ですね。そして、この出来事を題材にオンライン参加者が右の短歌を作ってくださいました(なんと小学生)!ユーモアがあってお上手です!「ウを見そびれたからいい歌ができた。ハイライトじゃないところに目を向けることがコツ」と、竹中さん。参加者からは「短歌を通すとももの見え方がかわる。自然のせつりへの驚きや、生きものへの慈しみをもっと感じることができそうだ。」などの感想をいただきました。

まぶたのような小鳥が白い実を食べて
フンをするから芽吹く木の芽は

イオンモールの脇の木陰のアカメガシワは
森に戻っていく最初の木

竹中さんの作品



▲ スマホで撮影したウ(水鳥)とオンライン参加者の作品

ウが魚食うところ僕は見そびれて
画面の川をただただながめてた

ふくおか環境活動発表会×ふくおかレンジャー研修会

ハイブリッド開催

「地域の自然と環境活動」(2021年2月13日)

福岡市環境局の企画「ふくおかレンジャー研修会」と「ふくおか環境活動発表会」がコラボした、オンライン発表会「地域の自然と環境活動」を開催しました。会場のみもる一む福岡からは「ふくおかレンジャー」として活動されている各校区の方々、そして「ウエットランドフォーラム」、「このす山であそぼう会」の皆さまに活動について発表していただきました。オンラインには聴講者として環境活動に興味関心のある方々が県内外から集まり、発表後に意見交換を行いました。



発表団体

ふくおかレンジャー

遊びや体験を通じて、地域の生きものや自然の大切さ、楽しみ方を伝える活動をされています。今回発表して下さった8校区の中から2校区をご紹介します！



元岡校区

瑞梅寺川河口や干潟での野鳥観察、公園で植物観察などを実施。野鳥観察では、鳥の名前、特徴をゲーム感覚で覚えられるように工夫したそうです。



多々良校区

農事組合さんにも御協力いただき、年に一度行われる久原川の堰清掃に合わせ、「魚とり体験」を実施。地域の方々の協力があるからこそ、実施できたイベントだとおっしゃっていました。

ウェットランドフォーラム

活動地 福岡市東区和白干潟

和白干潟の子ども生きもの調査隊「ガタレンジャー」について発表していただきました。干潟の楽しさや感動を子ども目線で発信し、それを大人や地域に伝えていくことを大事にしたいと話されました。



松本 悟さん

こうのす山であそぼう会

活動地 福岡市(南区・中央区)鴻巣山

「こんないい山があるのに、子どもたちが遊んでいないのはもったいない!」という声から始まった親子の「お山あそび」活動は今年で7年目。森の中で子ども達がありのままの姿で過ごすことができる時間をずっと残していきたいとお話くださいました。



高濱 佳子さん



校区と環境活動団体による、市内の森、河川、干潟をフィールドにした様々な取り組みを知ることができたボリュームたっぷりな2時間半。オンライン参加者からも沢山の質問やコメントを頂きました。ふくおかレンジャーのような身近な校区での活動や、校区をこえた環境活動がつながりあうと、活動がさらに活発になっていくのではと感じられる発表会でした。

環境局では、団体同士の交流の活発化やネットワーク形成により、活動の輪が広がっていくよう、今後も取り組んでいきます！

活動展示コーナーにて << ふくおかレンジャーのパネルを展示しています。

福岡市保健環境学習室「まもるーむ福岡」では、NPO や市民団体などによる環境活動を応援するために交流やネットワークの場づくり、情報発信など4つの取り組みを行なっています。環境活動に関心のある皆さん、活動に取り組むNPO等の皆さん、ぜひお気軽にご相談・ご参加ください。

4つの取り組み

ふくおか環境連絡交流会
ふくおか環境活動発表会

市民参加型調査
「ふくおかエコリサーチ」

特別講座
生きものと私たちのくらしく・かえ

情報の収集・発信



福岡市保健環境学習室

まもるーむ福岡
MAMOROOM FUKUOKA

〒810-0065 福岡市中央区地行浜2丁目1-34

☎ 092-831-0669

FAX 092-831-0670

開館 10:00~17:00

休館日は月曜日・火曜日

(休日の場合はその直後の平日)

年末年始(12月28日~1月4日)

